

## 式表示と式のよみ

## 式表示と式のよみ

式には、式に表すこと(式表示)と式をよむことの2つの大切な働きがあります。

式表示は、数量や数量の関係を式に表すことであり、式のよみとは、表された式から具体的な数量や数量の関係を考えたり、式の形に着目して思考を進めたりしていくことです。

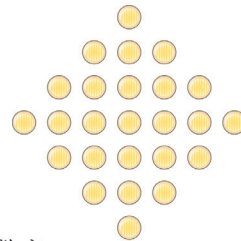
式のよみの具体的な指導は、1年から行ってきています。例えば、1年で $3+2=5$ になるような問題づくりをさせ、式から具体的な数量などをよみとらせるようにしています。

4年では、下の例のように、表された式の形に目を向けさせ、具体的な数量のとらえ方を明らかにします。

## 4 式のよみ方

1

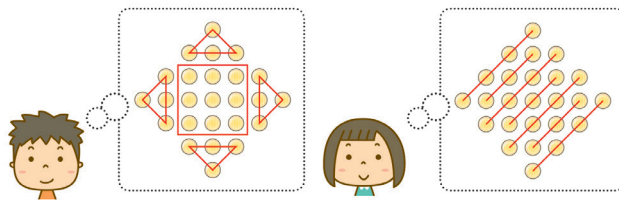
おはじきが右のようになっています。



- ア あゆみさんは、おはじきの数を次のような式で求めました。

$$4 \times 4 + 3 \times 3$$

あゆみさんの式を、図を使って説明しましょう。



- イ ほかにも、次のような式にかくことができます。図を使って説明しましょう。

あ  $3 \times 8 + 1$

い  $7 \times 3 + 4$

う  $6 \times 4 + 1$

え  $5 \times 5$

さらに、式の形に目を向けさせることにより、これまでに学習してきた数量の関係を統合的にとらえさせるようにします。